

校歌が歌う地域と時代

—東京都八王子市の市立小・中学校の事例—

坂本優紀*・濱 泰一**

*東京都立大学都市環境学部, **東京大学空間情報科学研究センター

本稿では、小・中学校の校歌に表現される地域的特徴を明らかにすることを目的に、校歌の歌詞と学校の所在地域および校歌の制作年との関係を検討した。対象は東京都八王子市内に位置する公立の小・中学校であり、全104校分の校歌の歌詞と89校分の制作年を収集した。分析の結果、八王子市で特徴的にみられる語句（地域語）として富士、高尾、桑、浅川、多摩が抽出された。地域語が含まれる校歌の分布には地域差が認められ、対象物との近接性や関係性が強い地域で優位に出現する傾向がみられた。また、制作年による語句の出現率には弱い負の相関がみられることから、新しく制作された校歌ほど地域語が含まれない傾向も明らかとなった。本稿の結果から、校歌の分析では学校の所在地域だけでなく制作された時代も考慮する必要があることが示された。

キーワード：校歌、歌詞、制作年、学校、八王子市

I はじめに

1. 研究背景

小学校や中学校の校歌の歌詞には、所在地域を象徴する自然・人文的的事物が取り入れられていることが多い。これまでの校歌に関する研究では、校歌に出現する地域に関係する語句（以下、地域語）を対象に、校歌と地域との関係が検討されてきた。例えば、大和田・菅（1982）や大和田・田中（1986）は、愛知県尾張地方の校歌に歌われる気象に関する語句の分布パターンと、実際の気象現象が強い地域が重なることを明らかにした。さらに大和田ほか（1985）では、愛知県内の小中学校を対象に、所在地域の地形と人文・精神・自然を示す語句の出現を分析し、校歌に地域の特徴がみられること、特に山や平野等の自然に関する語句の出現パターンが所在地域によって異なることを示した。これら大和田の一連の研究の主題は「環境教育への気候学のアプローチ」とされており、校歌のもつ教育的役割も意識されていることがわかる。また、全国の中学校の校歌を網羅的に調査し

た朝倉（1999）では、校歌にもっとも頻出する環境要素が山であることを明らかにした。同様に、全国の小学校の校歌の歌詞を分析した矢部ほか（1995）でも、出現する語句は山・川・海の自然に関する地域語が多いことを指摘している。さらに同研究では、山に関して、広域で確認できる標高の高い独立峰と近傍の低山が歌われるという興味深い結果を報告している。こうした校歌で歌われる地域語は、地域の自然環境を説明するだけでなく、希望・理想・向学・努力・伝統などの教育目標の比喩表現として使用されることが多い点も教育要素を含む校歌の特徴といえる（朝倉，1999）。

ところで、校歌の歌詞ではなぜ地域語が用いられるようになったのだろうか。近代の校歌の歌詞の変遷と地域との関わりを明らかにした須田（2020a）によると、校歌が制作され始めた1890年代には地域語はみられなかったという。その後、1910年代になると地域語が出現するようになり、1930年頃からは全国の小中学校で校歌が制作されるとともに、郷土教育と関連しながら「郷土の歌」としての役割を期待されるようになった。また、